

令和5年度 学校評価報告書 (目標設定・実施結果)

視点	4年間の目標 (令和2年度策定)	1年間の目標	取組の内容		校内評価		学校関係者評価 (3月18日)	総合評価(3月29日実施)	
			具体的な方策	評価の観点	達成状況	課題・改善方策等		成果と課題	改善方策等
1 教育課程 学習指導	①定時制生徒の多様なニーズに応えるカリキュラムマネジメントを進める。 ②基礎学力の定着と主体的で深い学びを実現するため、ICT機器の活用を含めた組織的な授業改善に取り組む。	①学びに向かう力の醸成と生徒の基礎学力向上を目指し、指導と評価の一体化を意識し授業を実践する。 ②授業改善を、「わかりやすい授業」をテーマに行い、ユニバーサルデザイン化された授業を念頭に具体化する。	①指導と評価のサイクルを繰り返し、生徒への効果が最大限となるような指導を実践する。 ②授業環境の整備とICT技術の活用の視点に立ち、本校生徒にとっての分かりやすい授業を具体化する。	①プリントへの書き込みや授業への取り組み方を評価することで、指導へ生かされたか。 ②生徒が意欲的に取り組めるような仕組みを意識して授業を実践したか。生徒が意欲的に授業に取り組んだか。	①プリントの書き込み内容へのコメントや、取り組みが難しい生徒への声掛け等により、授業への参加を促した。 ②モニターを活用しながら授業を進めることで、授業の進捗や書き込む箇所等を具体的に示した。 ③振り返りシート等を活用して生徒の意欲を引き出すことができた。	①協働的な学習や考察を伴う学習を苦手にする生徒が多い。今後も意欲を引き出しつつより深い学びにつなげていく必要がある。 ②google classroom等を活用し、自分の考えを表現し、共有する方法を模索し、本校の生徒に合った協働的な学習を推進する。	①生徒の意欲を引き出す評価の見取り方法において、具体性が必要である。 ②ICT利活用の推進において、生徒支援につながる仕組みづくりを期待したい。	①指導と評価の一体化を目指した授業展開を継続し、生徒の実情に合わせた指導計画を推進している。 ②ICTを活用することでの具体的な効果を検証し、すべての生徒が学びを深めていくための工夫を進める。	①指導計画の改善を常に図りながら、生徒の主体的な学びに向かう環境を整備していく。 ②効果的なICTの活用を目指した研修を充実させ、教科を越えた共有を図る。
2 生徒指導・支援	①他者を尊重し、良好な人間関係を築き、社会で生き抜くために必要な力を身につけられる支援を行う。 ②SC、SSWの活用や外部機関との連携を図り、一人ひとりの生徒に応じた相談体制・支援体制の充実を図る。 ③生徒の主体的・積極的な活動の支援体制を確立する。	①生徒一人ひとりの抱える問題・課題の解決を全教員で支援しながら人間の成長を後押しする。 ②多様で複雑な課題を抱える生徒について、情報把握と共有を図るとともに、組織的かつ機動的な支援を行う。 ③学校行事や委員会活動等、生徒の関心・意欲を高め、主体的に運営・参加できる機会を増やす。	①下校指導や自転車点検などの機会を生かし、年次を問わず職員全員で生徒を支援する意識を高める。 ①課題を抱える生徒に対して、長期的な計画を立て、支援する。 ②情報共有の機会を適切に設けながら個々に応じた支援に努めると共に、外部機関との連携を躊躇なく行う。 ③行事への参加を通じ、他者と協働して作り上げる経験の大切さを伝える。部活動を通して競技の楽しさを味わいながら、自分の可能性を高める努力の大切さを指導する。	①下校指導等に全職員が取り組み、生徒と積極的に交流を図ったか。 ①課題を抱える生徒に対する支援が継続して組織的に行えたか。 ②適切に情報共有ができたか。生徒の課題に対し、組織的に個々に応じた対応ができたか。生徒支援Gとの連携が図れたか。適時、外部機関と連携できたか。 ③アンケート調査による行事、部活動への参加意欲と満足度は高かったか。	①下校指導等に教員が積極的に取り組み、生徒と交流することができた。 ①課題を抱える生徒に対し組織的・継続的支援を行うことができた。 ②適切な情報共有に努めた。年次の相談G職員を核とした組織的な対応を進め、必要に応じて外部機関との連携を行った。生徒支援Gとの連携には課題を残した。 ③体育祭、文化祭では生徒たちの生き生きとした様子を見ることができた。アンケート調査でも満足度は高い。部活動では上位大会進出も複数あり、地道な活動が生徒の大切な拠り所となった。	①多くの生徒と良好な関係を築けるよう情報共有を密に行う。 ①情報共有の頻度を高め、G会議を合同で行うなど、より組織的な支援を行う。 ②年次相談G職員を核とした支援体制を強化するとともに外部連携のノウハウを蓄積する。支援計画策定における生徒支援Gとの連携を推進していく。 ③行事への積極的な参加を促し、より活気のある体育祭、文化祭を実施していく。また部活動への参加者数を増やす呼びかけを強めてさらに活性化させる。	①グループ間の連携の必要性が高い。工夫により推進してほしい。 ②変化する生徒対応の課題について、組織的な取組がなされている。 ③分教室の生徒の行事参加が大変有意義である。連携を継続したい。	①職員間の情報共有会や面談週間を年度当初に設定し、スムーズな生徒理解と支援を図っている。また、外部機関との連携を密にすることで、協働体制を構築した。 ③多様な生徒がより積極的に行事や部活動に参加し、学校生活を豊かなものとしている。	①不登校等の課題を抱える生徒が、学校とつながるためのさまざまな取り組みを進めていく。 ②外部機関を含めた多様な人的資源と連携し、適切な支援体制を構築していく。 ③学校行事をはじめとし、生徒の自己肯定感を高める活動の充実を推進していく。

視点	4年間の目標 (令和2年度策定)	1年間の目標	取組の内容		校内評価		学校関係者評価 (3月18日)	総合評価(3月29日実施)	
			具体的な方策	評価の観点	達成状況	課題・改善方策等		成果と課題	改善方策等
3 進路指導・支援	①生徒の幅広い進路希望やニーズに応じた支援体制の確立を図る。 ②生徒が主体的でたくましく社会を生き抜くことができる力を育成する。	①進路選択に際し、生徒一人ひとりの多様なニーズをよりの確に把握するとともに、組織的に支援できる体制を構築する。 ②生徒の社会的・職業的自立のために必要な能力を育成し、生徒自ら主体的に進路選択ができるように支援する。また、教職員の支援スキルの向上を図る。	① SCCや外部資源を活用する。新たに毎週開催する「進路相談スペース」および、ガイダンス等における相談機能を強化し、多岐にわたる生徒のニーズに対応していく。 ②各年次と連携し、生徒との対話型・伴走型の進路支援を継続するとともに、教員向け研修会を開催し、支援のノウハウを継承・発展していく。	① SCCをはじめとする外部資源を効果的に活用することができたか。「進路相談スペース」の生徒および教職員の利用状況は活発であったか。 ②各年次との連携がはかれていたか。支援事例や支援のノウハウについて、蓄積・共有が図れたか。	① SCCとの連携により、「進路相談スペース」の設置と「就職カンファレンスの実施」が実現し、生徒の相談機能および教職員をサポートする機能が強化された。 ②各年次と連携し、生徒のニーズに応じた支援を提供した。また、求人票研究会や進学・就職支援ガイダンス等を通じて支援のノウハウについて共有が図られた。	①引き続き、継続的な研修や情報共有の仕組みを整備し、支援のスキルを向上させる必要がある。 ②支援のノウハウの確実な継承と共有の実現に向け、教職員間での定期的な情報交換やワークショップを通じて、さらなる支援体制の強化を図る必要がある。	① 人的資源を有効活用し、丁寧な支援を行っている。今年度の新たな取組を、今後は前倒して実施していくことも有効である。 ② 支援に生徒との関係性の構築が活かされている。	①個々の生徒とより深い対話をはじめとし、多様な進路ニーズに応える支援を推進している。 ②外部支援の利活用に工夫しながら、生徒が主体的に考えていく力の育成に効果的な取組を行うことができた。	①外国につながる生徒の進路支援や、福祉就労関係をはじめとする様々な進路に対応する支援体制を継続していく。 ③ 支援のノウハウの継承を推進し、途切れない支援体制を構築していく。
4 地域等との協働	①学校の情報発信を積極的に行い、地域との連携を深める。 ②ボランティア活動等への参加を通して、地域との連携を深める。	①ホームページなどを活用し、積極的に情報発信を行うとともに、地域や保護者と連携・協働した活動を充実させる。 ②ボランティアの意味を理解し、自発的な意思に基づき、社会に貢献する活動を後押しする。	①HP やまち comi 等で学校の様子を積極的に発信し、開かれた学校として地域との連携をさらに深めるとともに、保護者の来校機会を増やす。 ② ガイダンスを通して、見返りを求めない善意による行為として価値があることを指導する。	①HP やまち comi 等を活用し、学校の様子を発信することができたか。保護者の来校機会を増やすことができたか。 ②生徒の主体的な取組を促す仕組みを構築できたか。ボランティアの意味と意義を理解し、活動できたか。	① HPの新着情報等の更新を適時行い、学校の様子を適切に発信することができた。保護者や中学生等の来校を促す一助となった。 ③ ボランティア活動の本来の意味を確実に指導しながら取り組ませることができた。単位取得を目的とする者も中にはいるものの、おおむね理解を深めたと考えている。	① 新着情報の適時適切な更新は引き続き実施する。全体の内容についても時期を決めて定期的に確認を行ってきたい。 ②主体的に他者の力にならうとする生徒を適切に指導し、ボランティア活動の意義を浸透させる。	① 地域理解を得られるような広報の方策として、HP以外の取組みの検討も必要である。 ② ボランティア活動において、意義が生徒に浸透する取組を継承してほしい。	①学校運営協議会や保護者会をはじめとした地域、保護者との連携を深めると共に、情報の発信を推進した。 ② ボランティア活動への主体的な取組を促す仕組みづくりを工夫していく。	①活動の限定性を実態に合わせ検証し、目的を明確にした連携を推進する。 ② ボランティア活動への主体的な取組を促す仕組みづくりを検討する。
5 学校管理 学校運営	①生徒を第一に考え、指導方針を共有し、生徒・保護者のニーズに応える学校づくりを行う。 ②一人で業務や悩みを抱え込むことがなく、健康で明るい職場環境を構築する。	①生徒・保護者、地域等から広く意見聴取等を行い、全職員で共有し、常に改善を図る ②適切な職務管理を行うとともに、職員一人ひとりが共有、協働の意識を心がけ、風通しの良い職場環境を作る。	① 生徒による授業評価や学校運営協議会等の意見を活用し、改善を図る。学校の運営方針を全職員で共有する。 ②事故不祥事等の事例を周知するなど職員のコンプライアンスの意識の醸成を行う。	①授業改善やコミュニティ・スクールなどの意見を取り上げる場をもてたか。運営方針を共有するための研修会等を開催できたか。 ②職務管理ができたか。職員一人ひとりが協働の意識を高める環境を構築できたか。	① 生徒による授業評価及びコミュニティ・スクールでの意見を活用し、本校における課題の把握と改善に向けた方策の検討ができた。 ② 具体的な事故不祥事等の事例を適時周知するとともに定期的な研修会を設定し、全職員で意識の更新を図った。	① 生徒・保護者のニーズの把握に努めるとともに、地域からの支えを得られる学校づくりを推進していく。 ② 職務管理を適切に行いながら、職員一人ひとりの協働の意識を引き出す風通しの良い職場づくりを推進していく。	① 学校生活における生徒の満足度はより高まっており、組織的な取組の成果が表れている。 ③ ヒヤリハットでとどめるための不断の意識改革が必要である。	① 生徒による評価及び外部の意見を積極的に発信し、必要に応じた研修を継続した。 ②様々な課題を職員が一人で抱え込むことのない、風通しの良い職場環境の構築を推進していく。	① 組織的な授業改善及び協働体制の方策を、更に検討していく。 ②働き方改革と協働を意識した、事故不祥事の起こらない職場を目指す研修を工夫していく。